松浦武四郎ってどんな人？

松浦武四郎は6度に渡る蝦夷地（北海道）の探査を通じてアイヌの人々とも交流を深め、蝦夷地の詳細な記録を数多く残しました。

今から150年前、明治政府に蝦夷地に替わる新たな名称として「北海道」のもととなった「北加伊道」を含む6案を提案したことから“北海道の名付け親”と言われています。

初めての旅は16歳

武四郎は1818（文化15）年、伊勢国一志郡須川村（現在の三重県松阪市小野江町）で生まれました。

今も残る実家は、江戸時代に伊勢神宮を詣れる旅人たちが行き交った伊勢街道沿いにあり、そのような環境で育ったゆえに、幼いころから旅への強い憧れを抱くようになったのでしょう。

16歳で江戸へ家出し、連れ戻されたものの、17歳から全国を巡る旅に出ます。21～26歳までは長崎に滞在し、「文桂」の名で僧侶にもなっています。

アイヌの人々とともに蝦夷地を探査

武四郎が初めて蝦夷地に渡ったのは1845（弘化2）年、28歳のとき。

長崎でロシアが勢力を広げるために蝦夷地を狙っていることを知り、日本の危機を感じた武四郎は、自ら蝦夷地を調べ、多くの人に伝えようと決意。以降、1858年までの間に計6回探査に訪れました。3回目までは一探検家として蝦夷地を探査し、見聞したことを日誌類にまとめました。

それを評価した江戸幕府は武四郎を雇い入れ、4回目以降は幕府の命で探査の任務にあたりました。武四郎は蝦夷地で暮らすアイヌの人々の協力を得て、寝食をともにする中でアイヌ文化のすばらしさに触れ、彼らの営みを本にまとめて紹介することにも力を注ぎました。

「北海道」の名に込められた思い

時代が江戸から明治へ変わると、武四郎は、大久保利通の推挙により明治政府に登用され、1869（明治2）年7月17日に蝦夷地に替わる名称を明治政府へ上申しています。

その候補にあげたのが「北加伊道」「日高見道」「海北道」「海島道」「東北道」「千島道」の6案でした。この中の「北加伊道」の「加伊」が「海」となって、同年8月15日に現在の「北海道」の名が生まれました。

武四郎は幕末に出版した『天塩日誌』で、アイヌの長老アエトモから、カイという言葉には、この国に生まれたものという意味があると教えられたと記しており、先住の民であるアイヌ民族を尊重する思いが込められていました。

また、武四郎はアイヌ語の地名に基づき、郡名・国名（後の支庁、現在の総合振興局と振興局）の撰定にも携わっています。

晩年まで続いた旅への情熱

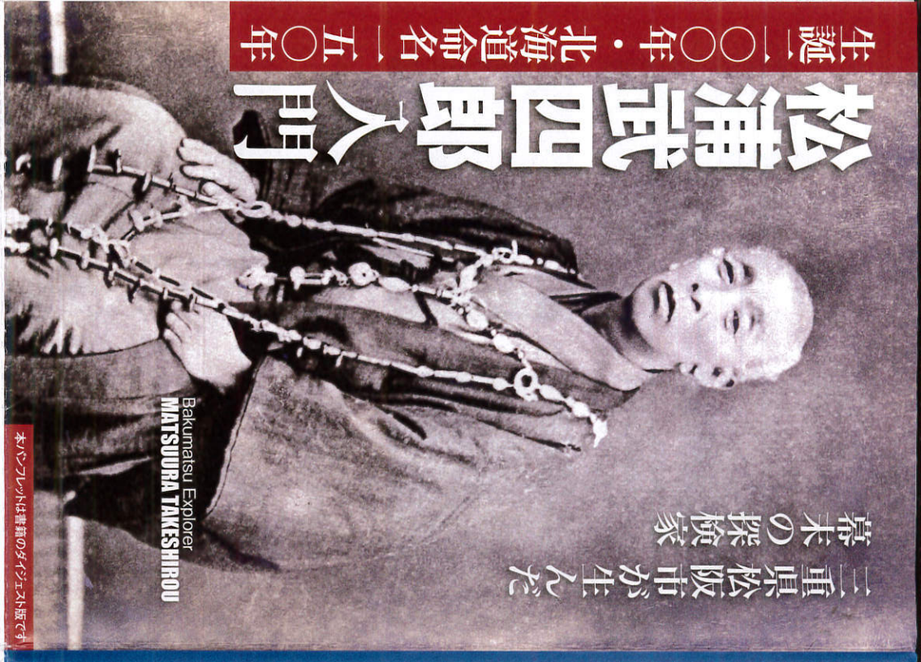
武四郎は晩年、奈良県と三重県の県境にある大台ヶ原に3年連続で登って調査を行ったり、70歳で富士山へ登頂するなど、1888（明治21）年に71歳で亡くなるまで、旅への情熱が衰えることはありませんでした。

武四郎の人生は、まさしく旅そのものであったと言えるのです。

旅に生きた小さな巨人

山本　命
松浦武四郎記念館主任学芸員

Bakumatsu Explorer
MATSUURA TAKESHIROU



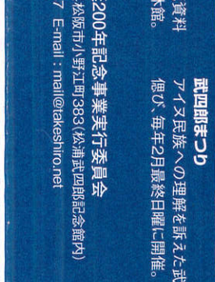
ふるさと松阪市小野江町

松浦武四郎誕生地（松阪市指定史跡）
伊勢街道に面した武四郎の実家。生誕200年を機に保存整備・公開。

伊勢街道
桑名・七里の渡しから日永の追分で東海道と分岐し、松阪の城下を経て伊勢神宮へ至る街道。写真は奈良街道との分岐点「追分の追分」。

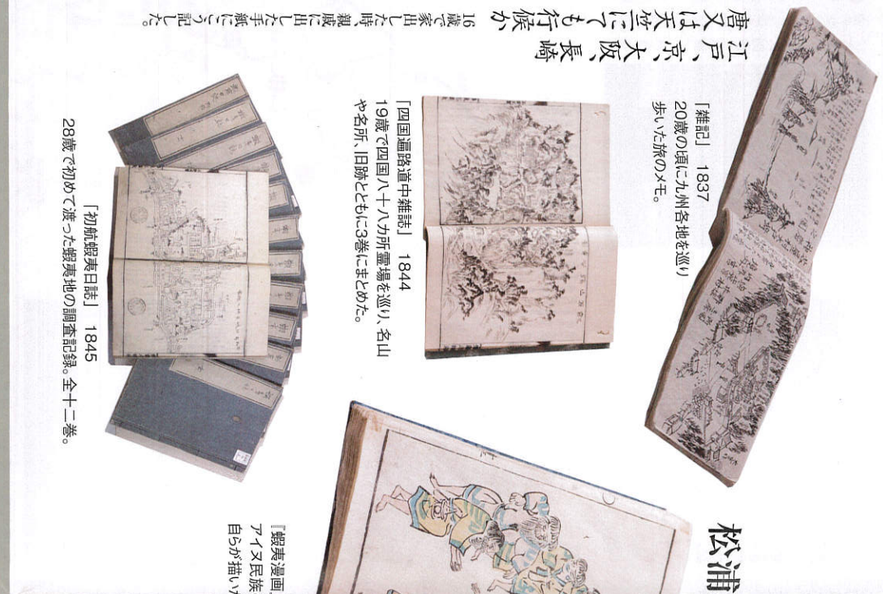
松浦武四郎記念館
武四郎の生涯と功績を豊富な所蔵資料で紹介。入館料一般310円。月曜休館。

武四郎まつり
アイヌ民族への理解を訴えた武四郎を偲び、毎年2月最終日曜に開催。



松浦武四郎生誕200年記念事業実行委員会
〒515-2109 三重県松阪市小野江町383（松浦武四郎記念館内）
TEL 0598-56-6847　E-mail：mail@takeshiro.net

たけちゃん

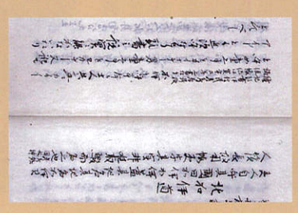


松浦武四郎が残したもの

著作物・日誌類

地図類

「東西蝦夷山川地理取調図」1859
蝦夷地の経度、緯度を1度ずつに区切った26枚の部分図で、9800ものアイヌ語地名が記されており、つなげた大きさは縦2.4m、横3.6m。



「北海道々名撰定上申書」1869
蝦夷地に替わる名称として「北加伊道」など6案を挙げ、理由とともに政府に上申した。

「大台山頂眺望図」1885
68歳で行った第1回目の大台ヶ原探査後に描いた鳥瞰図。3度に及んだ登山記は『乙酉撃記』『丙戌前記』『丁亥前記』として出版。

「骸骨図縫付傘」1886
コウモリ傘に布を縫い付け、70歳を超えた人だけに密せ書きを頼んだ。骸骨の絵は、知人の画家・川鍋暁斎が描いたもの。

一畳敷草の舎

全国の知人から社寺の古材を送ってもらい東京の自邸に建てた畳一畳分の書斎。用材の由来を「木片勧進」（1887）として出版し、旅の人生を振り返った。現在は国際基督教大学に移転、保存されている。

北海道の武四郎碑めぐり

北海道には松浦武四郎を顕彰する像や石碑、説明板、歌碑などが50基以上あると言われています。中には朽ちたり、草に埋もれて見つけにくいものも。アプローチしやすい場所にある碑をピックアップしました。武四郎の足跡を訪ねてみては。

㉙商工観光センター／神恵内村
国道229号沿い、商工観光センターへの坂道の途中に建つ歌碑。 H1・12

⑳面白内神社／雨竜町
石狩川支流の雨竜川右岸、面白内神社前に、土塁を盛り上げて建つ。 S55.9

⑲望洋遊園／留萌市
留萌港を望む高台に建つ踏査の地碑。武四郎が描いた絵も刻まれている。 H7・8

⑱にしん文化歴史公園／小平町
道の駅「おびら鰊番屋」の向い、海岸沿いにある公園内に銅像と歌碑。 H8・5

⑯宿営地碑／稚内市声問
稚内から宗谷へむかう国道238号沿いの内陸側に建つ宿営地碑。 H21.12

⑪北海道命名の地碑／音威子府村
国道40号から少し入った天塩川左岸に「北海道命名之地」碑と説明板。 H23.7

⑦ボッケ／釧路市阿寒町
阿寒湖の自然を詠んだ漢詩碑。近くの滝見橋付近には歌碑がある。 S16

①ウトロ漁港／斜里町
武四郎没後100年を記念して建てられた歌碑。 S63・9

㉚稲穂峠／仁木町大江
国道5号沿い、稲穂トンネルの北側入口右手に建つ歌碑。 H1・12

㉑中央公園／新十津川町
新十津川町役場近くの中央公園内、開拓記念館前に建つ歌碑。 H2・6

㉒北村支所／岩見沢市北村
旧北村の開村60周年を記念して役場前の緑地に建てられた顕彰碑。 S34.10

⑰鏡沼海浜公園／天塩町
天塩川河口の鏡沼海浜公園キャンプ場入口に、銅像と歌碑が並ぶ。 H9.5

⑫びふか温泉／美深町
森林公園びふかアイランド内「びふか温泉」前に建つ歌碑。 H10.10

⑧鈴蘭公園／音更町
十勝川北岸の高台、広大な鈴蘭公園の南東部に建つ開拓記念碑。 T8.5

②マッカウス洞窟／羅臼町
武四郎一行が洞窟に宿営したことを示す歌碑で、書は戸川幸夫。 S45.9

㉛武四郎坂／洞爺湖町
洞爺湖左岸の国道230号から湖へ至る道の途中が「武四郎坂」と呼ばれPAがある。

㉔マオイの丘公園／長沼町幌内
国道274号と337号が交わる道の駅「マオイの丘公園」内に建つ。 H6・7

㉓赤川排水機場前／岩見沢市北村
石狩川左岸、赤川排水機場手前の木立に建つ宿営の地碑。 S54.11

③霧多布岬／浜中町
岬の遊歩道を下っていくと、突端近くに歌碑が建てられている。 S48

㉜太田神社／せたな町大成区
尾花岬を経由する道道740号沿い、太田神社参道入口に歌碑と説明板が建つ。

㉕サーモン橋／千歳市
千歳川に架かるサーモン橋の欄干に埋め込まれた歌碑レリーフ。 S62.11

④峠の湯／美幌町
国道243号沿い、美幌峠近くの「峠の湯」入口に建つ宿営地碑。H10・8

㉝稲荷神社／八雲町由追
国道5号沿い、由追地区の内浦湾岸に建つ稲荷神社の境内に説明板が。 H2・3

㉖富里神社近く／厚真町富里
道道235号沿い、厚真川の支流に架かる「まつうらはし」のたもとに。 S32・11

⑬内大部川畔／士別市上士別町
天塩川支流の内大部川に架かる橋のたもとに建つ「天塩川探検之碑」。 S42.9

⑨幣舞公園／釧路市
釧路市中心部、釧路川左岸の小公園にあるブロンズ像。 S33.11

⑤池の湯／弟子屈町
屈斜路湖東岸の露天温泉「池の湯」近くの木立の中に建つ歌碑。S16

㉞百印百詩碑／江差町本町
江差港近く。武四郎が頼三樹三郎と開催した「百印百詩」を顕彰する碑。 H12・10

㉘アイヌ民族博物館／白老町
アイヌ民族博物館敷地内に建つ石碑で、民族共生の人として顕彰。 H26・10

㉗アイヌ文化博物館／平取町
二風谷の「アイヌ文化博物館」横に建つ、ブロンズの本型説明板。 H11・11

⑮真歌公園／新ひだか町静内
静内川河口左岸 真歌公園内のシャクシャイン記念館前に建つ。 H24・5

⑭深山峠／上富良野町
国道237号沿い「深山峠パーキング」内に建つ顕彰碑。 S48.10

⑩桜公園／中札内村
とかちリュウタン湖の札内川ダム畔、桜公園内に建つ歌碑。 H9.8

⑥アイヌ民俗資料館／弟子屈町
屈斜路湖の南岸、屈斜路コタンアイヌ民俗資料館横に建つ歌碑 H15.8

Bakumatsu Explorer
MATSUURA TAKESHIROU